

ICAP/4 ver8.x.11 Build3090の新しい機能及び特徴

新たな OS のサポート:

Windows Vista 及び 64 ビット OS をサポートしています。

Pspice-to-IsSpice4 コンパータ:

IsEd 内で Pspice ネットリストを読み込んだ後、Edit > Convert Pspice to IsSpice <ctrl>+I を選択可能で す。これにより IsSpice4 フォーマットに変換されたネットリストが別のウィンドウに表示されます。

Subdrawing 間の簡単な移動:

"Push Into Subdrawing"で下層のデザインに移動した後、右ボタンのポップアップ・メニュウで、"Return to Parent Drawing"を選択することにより、元のドローイング回路に戻ることが可能です。

Intusoft でタプ区切りのファイルに選択した波形をエクスポート:

IntuScope の File メニュウで現在"Export Waveform..."を選択できます。これにより MS Excel や IntuScope の"Add Waveform"ダイアログで txt ファイルをオープンできます。

IntuScope で Expression を使用して R.L,C 値のプロット:

Expression は TIME、FREQ、TEMP、コントロールされた V/I を作成するために Expression で 抵抗、容量、インダクタを使用することができます。以下のコマンドが IsSpice4 Simulation Setup User Statement ウィンドウに追加されると、プロット用のベクタが IntuScope の"Add Waveform Vector"リス トに追加されます。

".print tran @R1[resistance]"

".print tran @L1[inductance]"

".print tran @C1[capacitance]"

デフォルトでない x 軸波形を同時に"Alter"プロット:

TIME あるいは FREQ ではなく、x 軸で指定した波形を同じプロット内に表示できます。

Alter を使用後、初期値に返還:

"Alter"ダイアログを閉じた際、初期値にデバイスを戻すためのオプションを現在装備します。

電流及びパワーの OP ラベルを個別に Show/Hide:

ツールバーに"OP Currents"及び"OP Powers"ボタンが追加されています。

Save Limits:

Simulation Control Result ダイアログはテキストファイルにリミットをセーブすることができます。

IsEd Find の改善:

<CTRL> + <SHIFT> + F は"Find"ダイアログをスキップすることが可能で、現在ハイライトされたテキストを最近の検索項目のツールバー・ドロップダウンリストへすぐに配置できます。これは case sensitive です。"Toggle Match Whole Word"及び"Toggle Case Sensitivity"ツールバーボタンも追加されています。





IsEd ブックマーク機能の追加:

アクセラレータキーCtrl+F2, F2, Shift+F2 を使用可能な"Toggle Bookmark," "Go To Next Bookmark," "Go To Prior Bookmark"が IsEd の Search メニュウに追加されています。ブックマークがラインに設定さ れた場合、ラインの左側に楕円シアン色のマーカが表示されます。カーソルは適切なラインに移動され "Go To Next Bookmark" あるいは"Go To Prior Bookmark"がメニュウから選択された場合あるいはアク セラレータキーが押された場合、必要なラインにスクロールされます。

相互インダクタンスのスイープ:

相互インダクタンス値を現在スイープすることができます。

アップデートされた BSIM:

BSIM は 4.6.1 にアップデートされています。

改善された Error メッセージ:

シミュレーション前に不正な入力がある場合、すぐに警告するための多くのダイアログチェックが追加さ れています、例えば、"Alter"ダイアログ内で、抵抗、インダクタ、容量に"0"値が入力された場合のワーニ ングを含んでいます。シンタックス・チェックは公差の定義にも追加されています。シミュレーション中 に SPICE エラーがあった場合、エラーはすぐに、IsEd で表示されます。

改善された Library Manager:

ダイアログは現在ストレッチされ、セッション間にその箇所を記憶します。ダイアログを閉じる際、SRC= 及び SYM= ラインの変更は、"update part database"を実行するため Library Manager で確認の表示がで きます。保存されインポートされたモデルのインテグリティを確かめるために*****の行をインポートされ たモデル内へ自動的に付けます。

SWEEP:

Sweep 変数は現在ドロップダウン・メニュウから選択できます。各パーツをチェックするためにスイープ ダイアログ内でアクティブあるいは無効な状態をリスト化できます。パーツの tolerance¥sweep¥optimize タブ内では、現在 Outer 及び Inner コラムを一つのスイープ・コラムに結合することができ、作成された スイープ出力ファイルテキストは整理されます。Outer 及び Inner ループ・デバイス・パラメータ値は各 値に関連するプロット名を含む、定義した測定値をリスト化します。

OPTIMIZE :

全てのアクティブあるいは無効な状態は現在 optimize ダイアログ内でリスト化されます。0 になるパラメ ータでオプチマイズの公差を指定した場合、ダイアログ内で 0 と表示されます。現在個別にオプチマイズ 公差を無効化できます。

WCS :

リファレンス・シミュレーション及びセンシティビティ・シミュレーション間での所望の電気測定値の差 (Vout での iR2 等)は、指定されたデザイン・ノードあるいはデバイスで読まれる最終的な測定をするため に正方向(WCS_HI analysis),あるいは負方向(WCS_LO analysis)で出力できます。





EVA:

デバイス公差は、指定されたデバイスあるいはノードの結果が最大になるよう最初のセンシビティ解析を ベースにして max 値あるいは min 値を出力します。次に成功したシミュレーションは、センシビティ解析 によって測定された通りに、最大の正方向あるいは負方向に指定したデバイス公差を使用して実行されま す。以前の EVA ルーチンは現在の EVA_HI と同じです。新しい EVA_LO ルーチンは、上記のタスクと類 似した動作をしますが、デバイスの公差は指定されたデバイスあるいはノードのセンシビティ解析での最 小の測定結果をベースに極値を導きます。

【お問合せ先】

株式会社アイヴィス

 TEL
 (045) 332-5381

 FAX
 (045) 332-5391

 Email
 support@i-vis.co.jp

 HP
 http://www.i-vis.co.jp

